報告書

2020年7月豪雨
子どもたちへの緊急・復興支援

Save the Children


提供：こども園（許可なく無断転載・複製禁止）

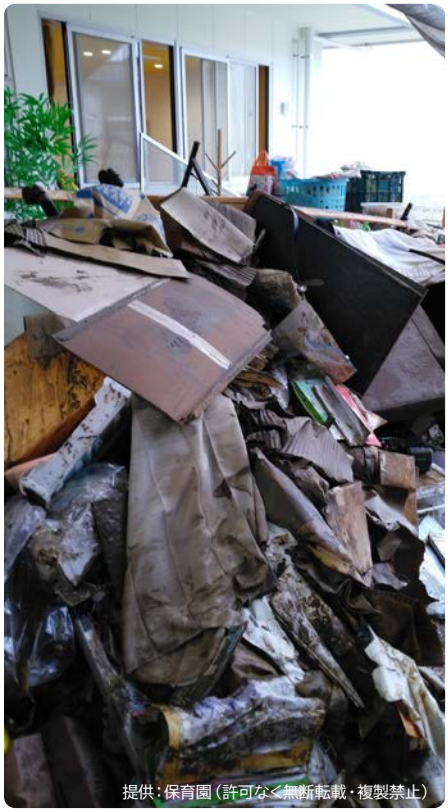

© Yatsushiro city


© Hitoyoshihokenjo/kumafukushijimusho


提供：小学校（許可なく無断転載・複製禁止）




© Yatsushiro city


提供：保育園（許可なく無断転載・複製禁止）

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

皆さまのご協力により、
2020年7月豪雨で被災した子どもたちに
さまざまな支援を届けることができました。

日本の広い範囲に記録的な大雨をもたらした2020年7月豪雨により、河川の氾濫や浸水、土砂災害が発生し、84人の命が失われ、7,500棟以上の住宅が全半壊または床上浸水の被害を受けました（2020年12月内閣府発表）。

災害により、子どもたちの日常も一変しました。自宅が被災し避難所生活を強いられたり、大切にしていた物を失ったり、いつも通っていた保育園や学校が浸水や損傷の被害を受けるなど、多くの子どもが困難に直面しました。

セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちや保護者、地域の支援ニーズにもとづき、子どもたちが日常性を回復し、災害時においても子どもの権利が守られるために緊急支援活動を行ってきました。今回は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、被災地域にスタッフを派遣せず、現地の子ども・子育て支援団体などと協力しながら、遠隔で支援活動を行いました。

皆さまからのあたたかいご支援は、子どもたちが再び安心して遊び、学び、成長していくための安全な環境づくりへとつながりました。心からの感謝をお伝えするとともに、これまでの支援活動について報告いたします。

3,387人
の子どもたちに
支援を届けました。
（大人を含め4,124人）
※2021年3月


緊急子ども用キットを詰める様子

連携団体からの声



熊本県人吉市内保育園園長
私はこれまで世界的なNGOというものの存在は知っていましたがセーブ・ザ・チルドレンは初めて知りました。今回の甚大な被害にきめ細かな支援をして頂き感謝でいっぱいです。また、私も今回初めて、被災した学校や保育園のつなぎの役割をお手伝いできたことをうれしく思います。本当にありがとうございました。

熊本県ひとり親家庭福祉協議会会長
熊本地震に引き続き今回の豪雨災害についても、いち早くセーブ・ザ・チルドレンから支援の申し出をいただいたことで、口腔ケア用品や肌着、靴下などの必需品を被災地に届けることができ、会員からも感謝の声が寄せられました。今回も、被災地の私どもに寄り添った心温まる支援を頂き、本当にありがとうございました。




© Akio Sakaguchi

子ども家庭支援センター（児童家庭支援センター）あまぎやまセンター長
大牟田市豪雨災害では、児童福祉施設への迅速で丁寧なサポートいただき、ありがとうございました。コロナ禍でニーズ調査や連携等が難しい中、日ごろからネットワーク作りと子ども支援へのひたむきな活動を続けられている「セーブ・ザ・チルドレン」だからこそのサポートだと感謝いたしております。地域の中で、これからも支え愛を続けていきます。

2020年7月

【上旬】
- 7月3日～31日にかけて日本各地に記録的大雨をもたらした7月豪雨が発生
- 九州地方の団体と連携し、子ども支援のニーズ調査を開始
- 7月7日からNPOくまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）が開催する支援者情報共有会議にオンライン参加

【中旬】
- 福岡県、熊本県、大分県、佐賀県の避難所などで緊急子ども用キットなどの物資を配布
- 熊本県人吉市内の避難所2ヶ所に絵本や遊び道具を提供
- 熊本県八代市内で浸水した保育園にエアコン設置を支援

緊急支援から復興支援へ。
迅速に、子どもたちのニーズに沿った支援を行いました。

災害発生直後から、さまざまな緊急・復興支援活動を行ってきました。

8月
- 熊本県芦北町と人吉市内の保育園やこども園などへ保育用備品、放課後児童クラブへ児童送迎のための支援を実施
- 八代市内の小中学生に制服を支援


提供：こども園（許可なく無断転載・複製禁止）

9月
- 熊本県人吉市内の小中学生414人へ体操服を支援
- 同市の保育園やこども園などに保育用備品を支援


提供：小学校（許可なく無断転載・複製禁止）

10月～
- 熊本県球磨村や人吉市、八代市内の小中学校、高校、特別支援学校へ学校用備品や部活動用備品を支援
- 福岡県大牟田市の保育園と放課後等デイサービスの施設用備品を支援


提供：学校（許可なく無断転載・複製禁止）

初動支援

緊急子ども用キット

衛生用品や防犯用ホイッスル、遊び道具などが入った緊急子ども用キットを1,000セット、熊本県人吉市・八代市、福岡県大牟田市、大分県日田市、佐賀県太良町で配布しました。感染症対策として、キットは複数で共有する形にならないようひとつのバッグに1人分の物品をまとめ配布しました。熊本県や佐賀県の放課後児童クラブ（学童保育）関係者、子ども・子育て支援者などがキットの配布に協力してくれました。



緊急子ども用キット準備の様子



緊急子ども用キットの中身

小学校の先生からの声

7月4日の豪雨災害発災後、1週間後にキットを送付いただき、迅速に、被災児童全てに届ける事ができました。予想だにしなかった水害被害により生活が一変しとまどっている子どもたちにとって、折り紙や文具はうれしい贈り物でした。また、コロナ禍の避難生活ということで、マスクなどの衛生用品は大変助かりました。

避難所の子どもたちへの支援

7月中旬、熊本県人吉市内の避難所では生活に必要な物資が揃い始めていた一方で、子ども用の遊び道具が準備できない状況でした。その情報を受け、人吉市内の避難所2ヶ所に立体パズルやシャボン玉、フラフープなどが入った遊び道具や絵本、おもちゃなどの消毒用除菌シートを、災害派遣医療チーム（DMAT）などを通して届けました。


© Hitoyoshihokenjo/kumafukushijimusyo
避難所の子どもたちが提供したおもちゃで遊ぶ様子



提供したおもちゃ

衣料品提供

2016年からひとり親支援を通して連携があった熊本県ひとり親家庭福祉協議会「てとてとて」や被災地の行政を通して、ニーズが高かった女性用品や子ども用の肌着・靴下、絵本などを熊本県芦北町や人吉市で配布しました。配布物資の準備は、セーブ・ザ・チルドレンのパートナー企業や、平時の活動でつながりのある自治体が協力してくれました。


© Tetotetote
提供した衣料品の一部

情報提供

自然災害の影響を受けた子どもは、安全な生活環境、心身の健全な発達、遊び、学び、参加などさまざまな子どもの権利が脅かされます。セーブ・ザ・チルドレンは、遊びや学びを通して被災した子どもが少しでも日常を取り戻すことができるよう、児童健全育成推進財団と連携し、避難所や在宅、車中で避難生活を送る子どもたちに対して遊びのアイデアを発信しました。
発信した遊びの情報は、子どもたちが避難先で限られた物やスペースの中で、感染症対策を取りながらできる工作や体を動かす遊び、読み聞かせなどです。被災地で配布した緊急子ども用キットの中には、遊びの情報へつながるQRコードが付いたチラシを入れ、キットの中に入れた文具などでできる遊びや工作の情報も発信しました。



「あそびのレシピ」チラシ
QRコードから防災や遊びの情報をご覧いただけます

こころのケア 精神保健・心理社会的支援

精神保健・心理社会的支援は、災害の影響を受けた人々の精神的な健康を守ることを目的とした、さまざまな種類の支援活動を含みます。セーブ・ザ・チルドレンは、遊びや学びを通して子どものこころの健康を支えるほか、子どもの身近にいる大人に対するこころのケア研修などを行っています。

情報提供

地震や事故などの危機的な出来事に直面した子どもたちは、普段とは異なる反応や行動を示すことがあります。「子どものための心理的応急処置（子どものためのPFA）」は、そのような子どもたちのこころを傷つけずに対応するための方法です。
7月豪雨の支援活動では、「子どものためのPFA」の情報をSNSやパンフレット配布を通して広く伝えました。加えて、セーブ・ザ・チルドレンが、日本臨床心理士会と日本公認心理師協会、災害派遣精神医療チーム（DPAT）とともにまとめた、災害や感染症などの影響を受けた子どもと親や養育者などが、心身ともに良い状態で過ごすために役立つポイントもSNSなどで発信しました。また、これらの情報を、被災地で活動する多くの支援者にも知ってもらえるよう、くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）が開催する支援者情報共有会議でも、情報提供を行いました。

子どものための心理的応急処置

大分県放課後児童クラブ連絡協議会からの要請を受けて、大分県内の学童保育指導員を対象に「子どものための心理的応急処置」のオンライン研修を行いました。当日は、精神保健医療の専門家が講師を担当し、学童保育指導員や関係者56人が参加しました。



「子どものための心理的応急処置」パンフレット
QRコードからダウンロードできます

研修に参加した学童保育指導員からの声

専門家とのつながりは、放課後児童クラブに欠かせないものであると思います。今後も、広くつながっていきたいと感じた時間でした。大変ありがとうございました。

子どもの保護

遊びや生活環境整備のための支援

7月豪雨により、保育園やこども園、放課後等デイサービス、放課後児童クラブなどの子ども関連施設で建物や使用していた備品が損傷、流出するなどの被害を受けました。セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちが再び安全な環境の中で、安心して学び、遊べるよう、環境整備のための支援を行いました。

こども園・保育所

備品など提供支援

熊本県八代市（1園）　：エアコン設置
熊本県芦北町（2園）　：ベッド、電化製品、授乳用ソファ、遊び道具など
熊本県人吉市（4園）　：電子ピアノ、マット、太鼓、粉ミルク、跳び箱、運動マットなど
福岡県大牟田市（1園）：食器洗浄機

園庭整備支援

熊本県人吉市（1園）：園庭修繕・整備支援

こども園職員からの声

地面から95㎝、床上50㎝まで浸水し、平屋建ての園舎が全て被害に遭いました。園庭はヘドロ状態、教室も棚・遊具・絵本・書棚・楽器類・書類他、ほとんどを処分せざるを得ない悲惨な状況の中、セーブ・ザ・チルドレンからの温かいご支援は、不安な思いをした園児や疲労困憊の職員に、前に進み出す一筋の希望を見いだすきっかけとなりました。本当にありがとうございました。

放課後等デイサービス

福岡県大牟田市（1ヶ所）：机、ピアノ、絵本、衛生用品など

放課後児童クラブ

熊本県芦北町（1ヶ所）：子どもの送迎車両支援
熊本県人吉市（1ヶ所）：掃除機、冷蔵庫

放課後児童クラブ職員からの声

球磨川の支流である学童クラブの前の川が、球磨川から押し上げられた濁流にのみ込まれ床上浸水となりました。机、勉強道具、本、遊具、冷蔵庫等々備品や生活用品がほとんど浸水または流されました。いただいた冷蔵庫は暑い夏を乗り切るのに大変ありがたく、感謝しています。



提供したベッドでお昼寝する子どもたちの様子



エアコンが設置された部屋で遊ぶ子どもたちの様子



食器洗浄機



絵本棚



支援した机や椅子を利用している様子

教育

豪雨の影響を受けた学校では、施設や備品などに大きな被害が出ました。被害を受けた自治体や学校では、学校再開のために環境を整える必要がありましたが、公的支援制度だけでは迅速な対応を行うことが難しい状況もありました。そのため、セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちが再び安全な環境の中で安心して学び、活動することができるよう学びに必要な備品や、部活動に関わる備品、学用品の提供を行いました。

学びの環境整備のための支援

熊本県球磨村（1校）　：ホワイトボード、傘立て、収納棚、文具など

部活動・学校生活再開のための支援

熊本県芦北町（2校）　：ワイヤレスアンプやマイクなどの音響器具、競技用ボール等部活動関連物品など
熊本県人吉市（1校）　：陸上競技用マット
熊本県錦町（1校）　　：ソフトボール部用ピッチングマシーン
熊本県八代市（1校）　：バスケットボール部、ソフトテニス部、野球部関連備品

学用品を提供

熊本県八代市（2校）　：制服（小中学生39人）
熊本県人吉市（7校）　：夏用体操服（小学生288人、中学生126人）

制服を受け取った小学生からの声

せいふくがなくなったけど、もらえてうれしかったです。
これからだいじにしたいと思います。

制服を受け取った保護者からの声
（保護者からのお手紙一部抜粋）

今回の水害でなくした物は多く落ち込みましたが、みなさまのご支援で元気をもらい日々前へ進むことができております。



本棚



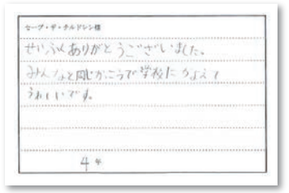
収納棚



部活動備品



提供した制服を着用した子どもたち



制服提供支援へのお礼のお手紙



提供した体操服を、先生から児童へ受け渡す様子



提供した体操服を手にした子どもたち

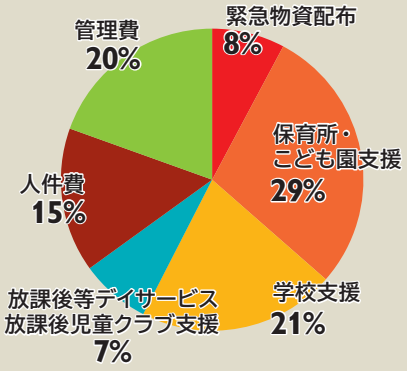
2020年7月豪雨 会計報告

支出 計 **27,585,204円**
（2020年7月～2021年2月末）

個人の皆さまや法人の皆さまからのご寄付により、2,000万円をこえる規模で、2020年7月豪雨緊急・復興支援を実施することができました。

事業名	金額
緊急物資配布	¥2,149,153
保育所・こども園支援	¥7,908,752
学校支援	¥5,811,960
放課後等デイサービス、放課後児童クラブ支援	¥2,067,332
人件費	¥4,266,476
管理費	¥5,381,531
合計	¥27,585,204

支出の割合



※2021年2月末時点

自然災害の被災地で、紛争地で―。
世界にはまだ支援を必要としている子どもたちがいます。

危機に備え、未来を守る
「いのち・みらい貯金箱」で、
自然災害や人道危機の緊急事態に対応します。



インドネシアの地震・津波被災地における緊急支援

いのち・みらい貯金箱へのご支援にご協力ください

クレジットカードからの寄付

パソコン
スマートフォン

パソコン・
スマートフォンから
ご寄付いただけます。

いのちみらい貯金箱　検索

郵便局(ゆうちょ銀行)からの寄付

郵便振込口座：**00190-8-791030**
加入者名：いのち・みらい貯金箱

※ 備考欄に「いのち・みらい貯金箱」とご記入ください。※ 振込手数料はご負担をお願いしております。※ 領収証ご希望の方は、振込用紙通信欄にその旨ご記入ください。

■ 企業としてのご寄付のご要望・ご相談については、下記までお問い合わせ下さい。 ■ セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへのご寄付は、税の控除を受けることができます。

セーブ・ザ・チルドレンは、子どもの権利のパイオニアとして100年の歴史を持つ、子ども支援専門の国際組織です。

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界120ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際組織です。子どもの権利が実現された世界を目指し、1919年から活動しています。



Save the Children

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
TEL: 03-6859-0070（平日9:30～18:00）
www.savechildren.or.jp

2021年4月発行